

令和 5 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分：図書館活動における功績

2. 対象者：海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業ワーキンググループ
(京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良教育大学及び奈良女子大学に所属する職員 8 名)

3. 件名：GakuNin RDM を活用した大学間共同作業：海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業

4. 結果：採択

5. 理由：本件は、「海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業ワーキンググループ」(以下、「WG」という。)による、海外の RDM(研究データ管理)支援実践事例の翻訳・編集作業を通じて、研究データ管理支援業務に関する人材育成と大学間交流を行った取り組みである。WG は、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良教育大学及び奈良女子大学に所属する職員 8 名で構成されている。

オープンサイエンス推進の重要課題である研究データ管理についての国内での実践事例は少ない。海外の実践事例『Engaging Researchers with Data Management:The Cookbook (2019)』を翻訳・編集し、その作業を通じて研究データ管理に関する調査や意見交換を行い、日本語化における各用語の精査、表記の調整のほか、作業ファイルの管理・共有ツールとして GakuNin RDM を利用した実践等により、WG 構成員それぞれが研究データ管理に関する知識を獲得し、理解を深めることができた。

国立大学の共通課題に対し、複数大学の職員が連携して活動する実践事例であり、各人のスキルアップや専門性を高めることを実績として示した取り組みとして評価できる。この取り組みにより参加者間の人的交流にもなり、組織を超えた共同作業の経験が今後の業務においても大いに役立つと考えられる。また、参加者の所属大学にもその知見が還元され、成果物が『データ管理で研究者と協力するために:クックブック』として京都大学学術情報リポジトリで公開されたことにより、国内での研究データ管理の実務への利活用が期待できる。

以上のことから、本件は大学図書館界における研究データ管理支援の大きな一助となる取り組みであり、その専門性において高い意義を有するといえる。ビジョン 2025「目標 1-1:教育研究成果の発信、オープン化と保存」及び「目標 3-2:国立大学図書館職員の能力向上」の達成に貢献するものであり、「国立大学図書館協会賞選考基準」第 4 条第 1 項第 2 号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。